

授業科目名	行動の科学(2100126)		
時間割名	行動の科学(22111)		
時間割担当	高木悠哉		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・2		

授業の目標・概要

行動科学とは、その名が示す通り、人間の行動を科学的な視点から探求し、その法則性を明らかにしようと試みる学問である。行動を科学的に研究しようとする分野は数多くある。たとえば、社会学、経済学や、脳神経科学、精神薬理学、動物行動学などが挙げられる。その中でも、本講義では、心理学における行動を科学的に研究する手法や、それによって得られたデータをどのように解釈するかについて紹介する。また、本講義で紹介する研究手法が実際に教育学、教育心理学分野でどのように用いられ、どのような結果が示されているかについても紹介する。

学習の到達目標

本講義では、心理学分野での行動科学的研究手法を理解すること、特定の研究手法と得られる結果ごとの利点と欠点を理解すること、心理学に基づく行動科学的なデータの取得ができるようになることを目標とする。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、パワーポイントおよびレジュメを活用しながら授業を進める。
2. 必要に応じて、取り上げたテーマに関する学生の発表およびディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 行動科学とは
心理学における行動科学的視点の基礎
- 第2回 行動科学的な研究の前提(1)
主に、実験的研究と相関的研究について概説する。
- 第3回 行動科学的な研究の前提(2)
因果関係と相関関係について概説する。縦断系研究と横断的研究について理解する。
- 第4回 行動科学的な研究手法(1) 実験法の概説
教育心理学での実験的な研究手法を概説し、教育心理学分野における実験法の例を概説する
- 第5回 行動科学的な研究手法(2) 実験法に基づく研究計画の策定
実験法に基づく具体的な研究例を紹介し、グループごとに批評後、研究例を考える。
- 第6回 行動科学的な研究手法(3) 実験法による研究計画の発表
実験法を用いた研究についてグループごとに発表し、ディスカッションを行う。
- 第7回 行動科学的な研究手法(4) 調査法の概説
教育心理学での質問紙による研究手法を概説し、教育心理学分野の知見を概説する。
- 第8回 行動科学的な研究手法(5) 調査法に基づく研究計画の策定
質問紙法に基づく研究例を紹介し、各グループで研究例を考える。
- 第9回 行動科学的な研究手法(6) 調査法による研究計画の発表
調査法を用いた研究についてグループごとに発表し、ディスカッションを行う。 中間テスト
- 第10回 行動科学的な研究手法(7) 観察法
教育心理学での観察による研究手法を概説し、教育心理学分野の知見を概説する。
- 第11回 行動科学的な研究手法(8) 検査・面接法
教育心理学での検査、面接による研究手法を概説し、教育心理学分野の知見を概説する。
- 第12回 行動科学における研究倫理
行動科学的なデータを取る際の、倫理面の配慮について概説する。
- 第13回 行動科学的なデータ取得の実際
第6回でグループごとに発表した研究計画を実際に遂行する。
- 第14回 行動科学的に取得したデータの分析方法
グループごとに取得したデータに基づいて、その分析方法を理解し、結果をまとめる。
- 第15回 研究発表
行動科学的に取得したデータに基づいて、グループごとに発表し、議論する。

成績評価の基準

講義の初めに毎回小テストを行い、学生の自宅学習および講義に対する理解度をチェックする(20%)。グループごとの発表の内容を評価する(30%)。中間試験において講義の理解度を確認する(10%)。さらに、学期末テストにおいて総合的な理解を確認する(40%)。

授業時間外の課題

予習：毎講義の終わりに次週の予告を行う。予告した内容について小レポートを次の週までに作成し講義に臨むこと。
復習：毎回の講義の最初に小テストを行い、その結果を講義ごとに返却する。必ず再度見直し、中間、期末試験に備えること。

メッセージ

原則、講義に出席し発表を行わないと、いくら試験の成績が良くても単位が取れないと考えてください。

教材・教科書

教科書は使用しません。講義ごとにプリントを適宜配布します。

参考書

講義中に、グループごとの発表内容に応じ指示します。